

平成23年度 学校経営計画

狭山市立入間野小学校

1 学校経営の基本理念

(1) 教育に携わる者としての使命感と誇りを持つ

- ① 法令、学習指導要領等の示すところに従い、教職員としての使命感と誇りを持って教育活動を行う。
- ② 児童の人間として調和のとれた育成をめざして教育課程を編成し、保護者地域と一体となってその実現に努める。

(2) 保護者、児童の期待に応える

先行き不透明で、変化の非常に激しい社会をたくましく生き抜く児童を育てることが重要である。そのような児童を育成してほしいという保護者の期待も大きい。具体的には、確かな学力、社会生活や集団生活を円滑に行うための能力、健康な体と精神等の「生きる力」を授業を通して身につけさせることを学校全体で行う。

(3) 地域とともに新生入間野小学校をつくる

今年度は、入間小学校の統廃合にともない新たな入間野小学校のスタートの年にあたる。入間小学校から転入した児童・保護者、入間小学校の伝統を尊重し、学区が広がったことや児童が増えたことでプラスになったことを積極的に生かしていく。

授業や学校行事等、様々な機会に、友達が増えたことや地域が広がったことを生かし、体験的な活動をしたり、地域のよさを積極的に授業に生かしたりする。

(4) 組織として取り組むことを意識する

学校は、学校教育目標を具現化させるための組織体であることを常に意識する。そして、「子ども中心」を判断の基準として学校経営を進めていく。

2 学校教育目標

学校の教育目標は、保護者・教職員・地域の人々が、次代を担う子どもたちに期待を寄せる「めざす人間像」である。

今求められているものは「児童が意欲的に学び、主体的に考え、判断し、仲間と共に成長し合う力を育成することである。その基になるのは、健康でたくましい心と体、継続的に自らを高めていこうとする強い意志である。

それらの力を生かして、児童は自らの力で学力を獲得し、好ましい人間関係を構築し、自分に自信を持ち、たくましく生き抜く力を身につけることができる。

本校は教職員の創意工夫と保護者・地域との協働を通して、この目標実現に向かう。

校 訓

仲よく	考え	やりぬく子
-----	----	-------

《総括目標》「自分に自信をもち、学ぶ喜びや友達と一緒に活動する充実感を味わえる児童の育成」

やさしい子	よく考える子	がんばる子
<ul style="list-style-type: none"> ・善悪を判断してルールがきちんと守れる ・男女仲よく、相手の気持ちや立場を考えて行動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・話をよく聞き、自分の考えを表現できる ・疑問や課題をよく考え、解決しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気に遊んだり、一生懸命仕事をしたりする ・くじけず、あきらめない

3 めざす学校像と教師像

<p>めざす学校像 「みんなが元気で明るいきれいな学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちのよい挨拶で始まり終わる学校 ・児童が安心して通える学校 ・児童、保護者、地域と学校が信頼で結ばれた学校 ・地域に開かれた学校 ・環境が整備され、清潔な学校 	<p>めざす教師像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの児童をよく見つめ、的確な指導ができる ・教師自らが学ぶ意欲と情熱がある ・責任感があり信頼される ・深い教育愛に裏打ちされた生徒指導・教育相談 ・組織の一員であることを常に自覚し、よいことも悪いこともひとりで抱え込まない
---	---

4 本年度の教育指導の重点

(1) 確かな学力の定着

- ①一人ひとりの児童の学力をしっかりと把握し、一斉画一でない、創意に満ちた授業の創造
 - ・少人数指導や習熟の程度に応じた授業等、学力差に応じた授業の工夫
 - ・読むこと、書くこと、計算すること等、基本的な事項は繰り返して学習し、できることを見届ける
- ②学ぶ意欲・学び方も学力の大切な要素であり、授業を通してそれらを身につけさせる
 - ・「知識・技能」を確実に身につけさせることはもちろんだが、「自ら考え判断する力」「表現力」「問題解決能力」等授業を通してつける。
 - ・教師が柔軟な思考で児童に対応し、児童が生き生きと主体的に学習できるよう、指導法を工夫する。
 - ・問題解決的な学習や体験的な活動など多様な学習形態を取り入れる
- ③目標の明確化と評価
 - ・単元の目標、1時間の授業の目標をしっかりと教師は把握し、その授業の目標が児童に定着したかという視点で評価する。
 - ・評価は児童のよりよい変容のための評価（子どもを伸ばすための評価）であることを基本とする。
- ④3つの達成目標「学力」を学力の基礎と捉える
 - ・3つの達成目標「学力」を学力の基礎と捉え重点的に指導する。また定着を見届ける。

(2) 自主性・主体性・共に学ぶ力の育成

①生活の基本的なマナーの育成

- ・あいさつや返事、言葉遣い等、生活の中で必要な基本的なマナーを身につけさせる

②コミュニケーション能力の育成

- ・「伝え合う力」の育成に努め、自分の考えを表現するとともに友達の見解をよく聞きコミュニケーション能力を高め、協力して生活できるようにする。

③3つの達成目標「規律ある態度」について

- ・生徒指導の重点、月目標等に組み込み、継続的に指導する。
- ・家庭・地域との連携で「規律ある態度」の醸成
学校、家庭、地域が一体となって実効性のある指導に努める。

(3) 豊かな心とたくましい心身の育成

①継続して豊かな心とたくましい心身の育成

- ・人間として生きる力の基本となるものが豊かな心と健康な体である。「継続は力なり」と言われるように、学習・運動・清掃等での継続した努力を通して、基本的な生活習慣やきまり、善悪の判断、人間として、してはならないことをしない等の指導の充実を図る。

②元気なあいさつ

- ・入間野中学校、家庭、地域と連携し、元気で明るいあいさつができる児童・生徒を育てる。

③3つの達成目標「体力」について

- ・今まで実践してきた体育の成果を生かし、体育の時間の充実をさらに図る。また、休み時間の外遊びを徹底する。
- ・家庭とも連携し、楽しみながら体力の向上につながる取り組みを奨励し、体力向上を意識した生活スタイルづくりの協力を求める。

5 学校経営の方針

経営方針『協働・研鑽・信頼』

(1) 学校教育目標の具現化

教職員が職務に対する自信と誇りをもって、目標具現化のために自主的・自律的に努力する。

(2) 地域とともに

保護者、地域住民の声に謙虚に耳を傾け、共に力を合わせて目標達成に努める。

(3) 常に学ぶ姿勢で

専門職としての力量を高め、児童、保護者の期待に応えられるよう、常に学ぶ姿勢をもち研鑽に努める。

(4) 信頼で結ばれた絆

同じ目標に向かって仕事をする職場の同僚として、互いに信頼し支え合いながら、この職場を人間としての成長の場とする。

6 経営の重点

(1) 子どもの成長の累積を

- ・日々の教育実践は子どもを伸ばすためのものである。そのために、「何をなしてきたのか」「どうするのか」等、指導の累積に努める。

(2) 指導者としての説明責任

- ・学年や学級の教育活動の計画と記録を累積し、説明ができるようにする。

(3) 授業を通して指導力を向上させる

- ・個々の課題をもって授業を改善しようとする意識を絶えずもち、自分自身のプロとしての技量を高める。

(4) 信頼関係の醸成

- ・日々の努力と誠実で謙虚な気持ちを忘れない。信頼は容易につくれないが、一度失った信頼を回復させることは容易でないことを肝に銘じる。

(5) ミドルリーダーの役割

- ・教務主任、学年主任、分掌主任等はその役割と責任を自覚し、時には管理職と若手の職員を橋渡しするような役割を努める。これらのミドルリーダーが学校の中心的存在であることを意識する。
- ・経験年数の浅い教職員は、積極的にミドルリーダーに報告、相談、助言を受け、指導に生かす姿勢をもつ。

(6) 地域に開かれた学校

- ・保護者や地域の願いをできるだけ把握し、相互理解の上に立って指導を行う。
- ・地域の教育力を積極的に学校に取り入れ、教職員も地域に出る。特に今年度は入間小学校の学区も加わり地域が広くなり、人材も豊富になっていることを自覚する。

(7) 仕事をするうえでの充実した環境の学校

- ・教職員が充実して仕事ができる環境の学校。
- ・教職員の健康増進に配慮する。